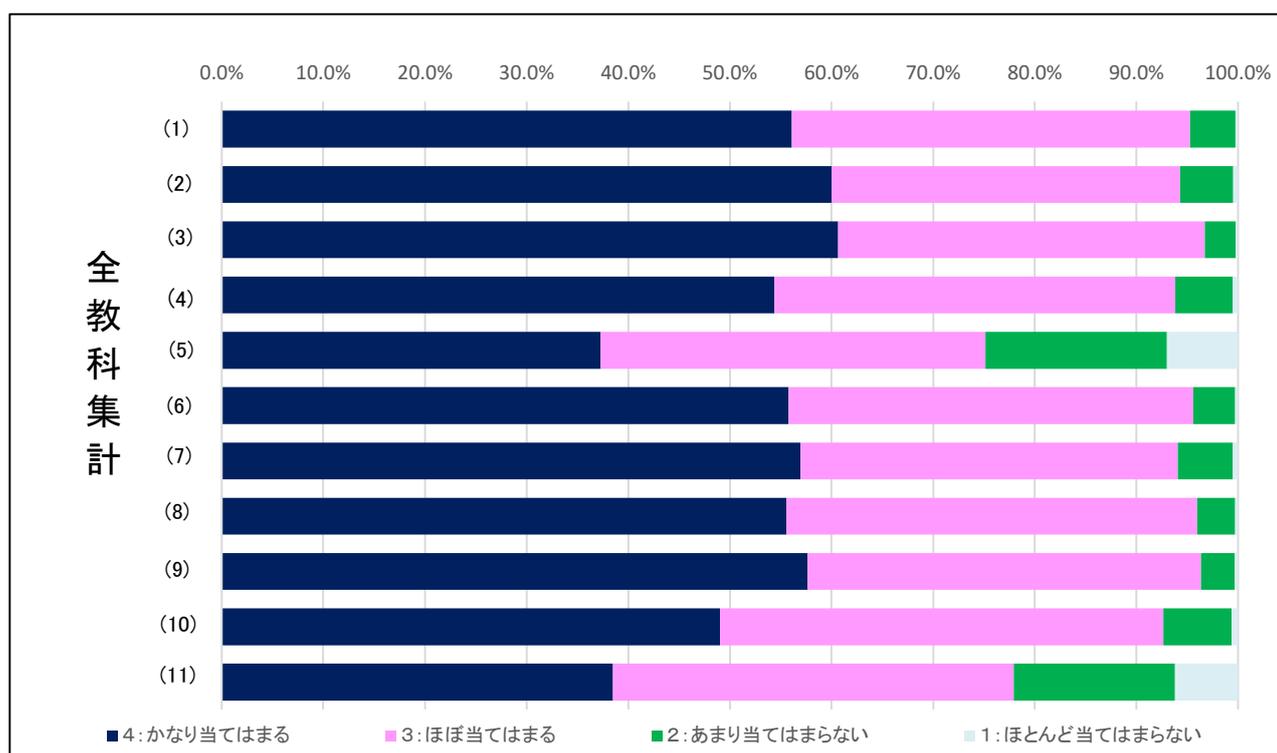
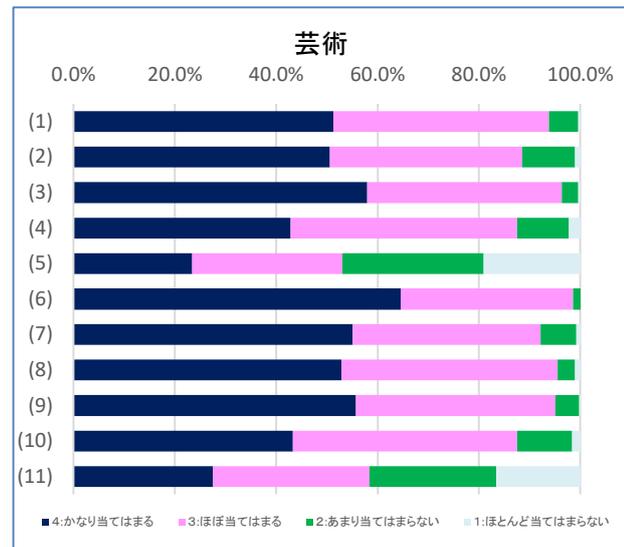
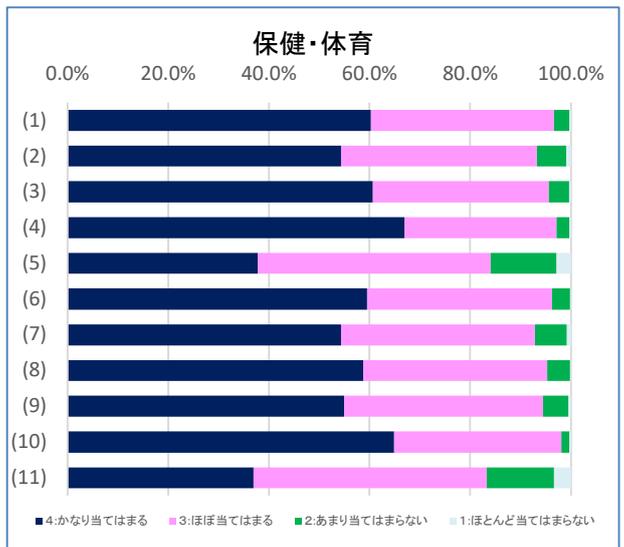
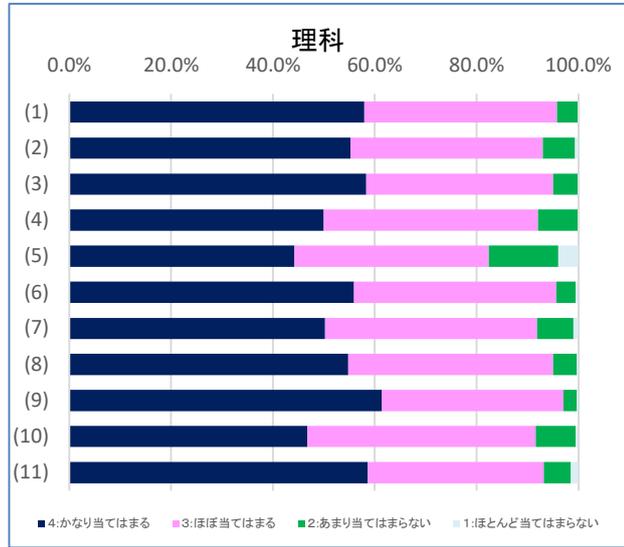
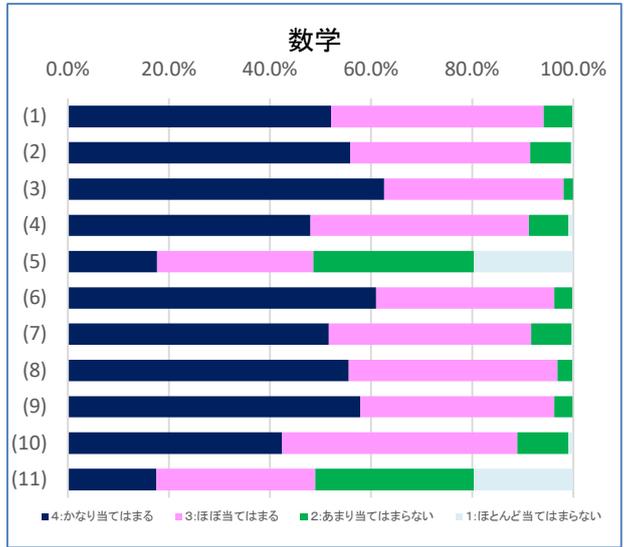
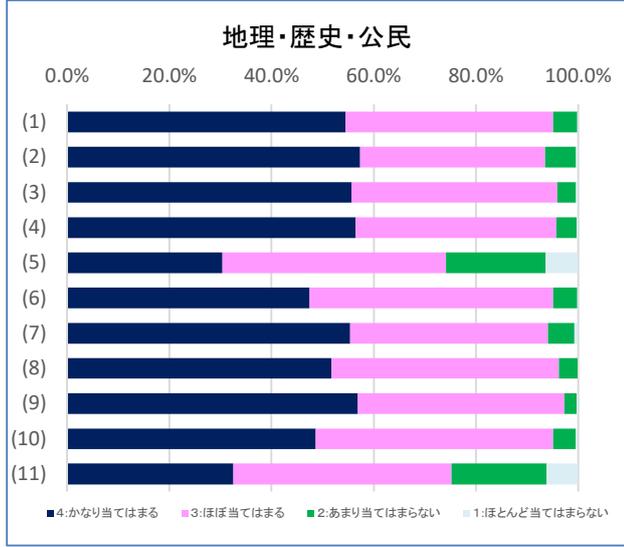
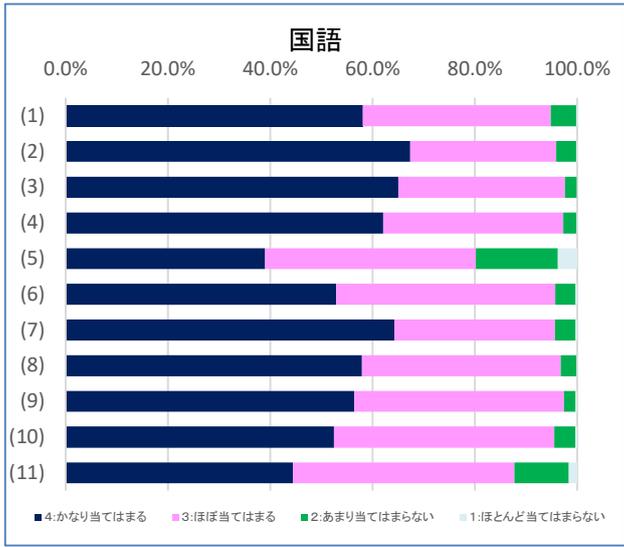
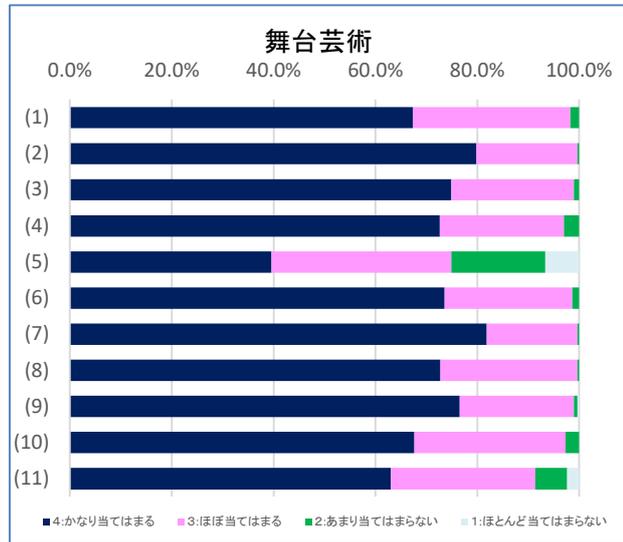
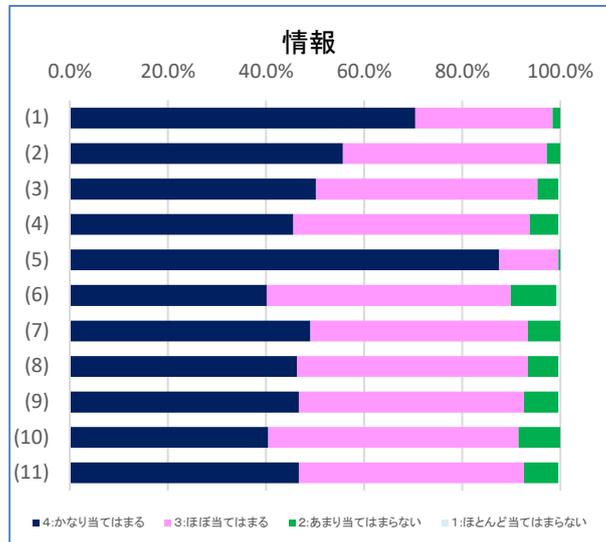
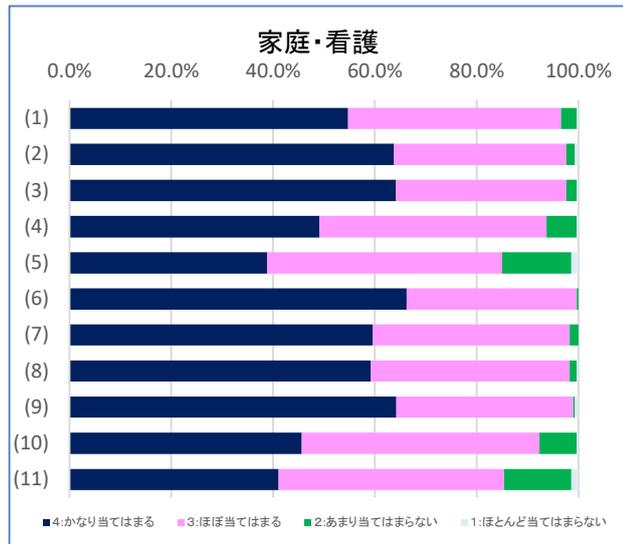
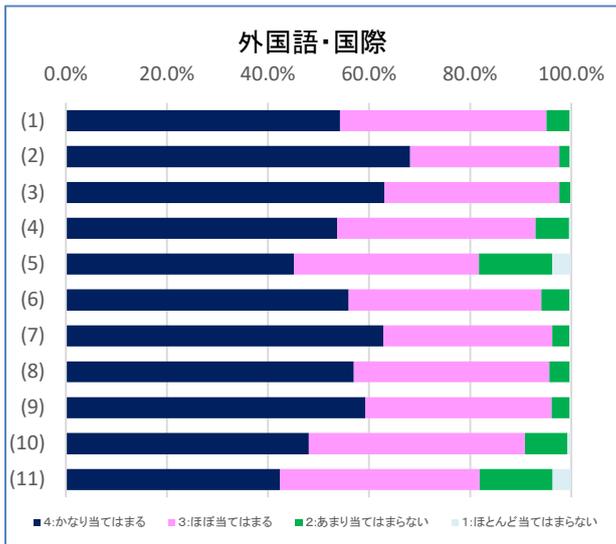


## 令和7年度 第2回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和7年11月10日～12月1日実施)

大項目	小項目	
授業の在り方について	(1)	毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2)	単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3)	単元(内容のまとまり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4)	新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考する学習活動がある。
	(5)	ICT機器等を利活用した、協働的な活動や発表の場面がある。
学習の状況について	(6)	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7)	他者の考えを知るにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8)	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9)	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10)	新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考することができた。
	(11)	ICT機器等を利活用した、協働的な活動や発表に取り組むことができた。
評価について	各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。	







令和7年度 第2回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科		授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み
国語		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全科目において、他者の考えを知り、自らの考えを深める活動の項目への評価が高い。</li> <li>● ICT機器を使った取り組みについて評価が若干低めである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教員の異動に影響されない取り組みを継続する。</li> <li>● 教科特性を考える必要があるが、効果が期待できる内容については活動の場を増やし、実感できる機会を設けていきたい。</li> </ul>
地理 歴史 公民		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導すべき内容が多く、多岐に渡る教科の特性がある中で、インプット中心で、自ら考える機会や協動的な学びを行う時間をとれていない科目がある。</li> <li>● 単元のまとまりのはじめに学習のねらいを示すように工夫した科目もあったが、アンケートの数値が大きく変化しなかった。単元のまとまりを提示することの効果が生徒が実感できていない可能性がある。</li> <li>● 生成AI活用が難しい。また、アンケート項目の(5)と(11)が、ICTの活用が前提となっているので、ICTを使わずに、素晴らしい取り組みがあったとしても、この数値が改善しない。教授の内容や質ではなく、教授の形式のみに注目している評価項目なので、この項目で評価できることも限定的ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体像をつかむことや、考えさせたいことから、問いや授業の説明内容を精査し、自ら考える機会や協動的な学びを行う機会を確保する。</li> <li>● 教科書に書かれている問いを活用する。最後のまとめでも確認する。また、前回の問いの答えを読み合わせて、冒頭で復習させるといった方法もある。</li> <li>● ICTを使った教授のあり方を、教科内で共有して、実践していく。</li> </ul>
数学		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回授業評価では、(5)、(11)の回答で4または3の割合が低いことが課題であったが、今回の授業評価では改善が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 引き続きICT機器等を活用した協動的な活動や発表の場面について、授業見学等を行いながら教科内で継続的に議論、情報共有を行う。</li> </ul>
理科		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導への評価は高いが、生徒の主体性・思考力(5)、(6)に課題。</li> <li>● 指導への理解度(3)は高いが、知識を使いこなす力(6)に不安が残る。「授業を聞いて満足」してしまい、自力で解くための定着作業((5):主体的取り組み)が不足している。</li> <li>● 授業規律(9)は高いが、意欲・思考(5)、(6)が低い。静かに聞く姿勢は整っているが、主体性や対話の活性化が課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ①アウトプット時間の確保 教員による解説時間を短縮し、生徒が問題を解く、またはペアで説明し合う時間を増やして受動的学習からの脱却を図る。</li> <li>● ②思考を促す「問い」の導入 単なる暗記ではなく「なぜその答えになるか」を考えさせる発問や、ICTを活用した意見共有を行い、思考力・表現力を育成する。</li> <li>● スモールステップの演習」の徹底 解説の合間に短い確認問題を頻繁に挟み、自力で「できた」という実感を積み重ねさせる。</li> <li>● ①思考を共有する仕組みづくり ICTを活用し、生徒の解答や疑問を即座に全体共有する時間を設ける。他者の視点に触れることで(6)(思考力)を刺激する。</li> <li>● ②興味を惹く導入の工夫 単元の冒頭で日常生活や実社会との関わりを提示し、(6)(活用力)への関心を高めることで、主体的な学習への動機付けを行う。</li> </ul>
保健 体育		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「批判的・論理的に思考する学習活動」について大幅な評価の改善が見られた。</li> <li>● 「ICTを活用した、協動的な活動や発表」についての評価がばらける結果となった。生徒のニーズや期待に対してまだ不十分である可能性がある。ICTを活用することによる、身体活動の時間の減少を危惧してなかなか活用に踏み切れない教員も多い。</li> <li>● 「ICTを活用した、協動的な活動や発表」についての評価が4よりも3や2の評価にさがってしまう結果となった。生徒のニーズや期待に対してまだ不十分である可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「教えられたことをやる、セオリー通りにやる」のではなく、「なぜうまくいかないのか」「どうやったらうまくなるのか」を多様な角度から考えて、自己や仲間の動きを分析するような授業を増やすことができた。</li> <li>● ICTの活用例などを共有していくほか、教材研究を共同で行うなど教科内で情報を共有して、今後ICTの活用と協動的な活動の時間を増やしていく。</li> <li>● ICTの利活用については活発になってきているが、生徒のニーズや期待に対してまだ不十分である可能性がある。生成AIなどを活用した活動をグループで行わせるなどして、より学習した内容を実生活で活用できるようにするなど、教育効果を高めていきたい。</li> </ul>
芸術	音楽 美術 工芸 書道	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前期から引き続き(1)～(4)、(6)～(10)の質問については9割前後の生徒からポジティブな回答があり、満足度は高いと考えられる。</li> <li>● (5)、(11)については、ICTの使用に加え、協動的な活動や発表が項目にあるため、その双方を満たすと評価できるか意見が分かれていると考えられる。</li> <li>● ICT利活用について、実際に手を動かす時間に重きをおこうとすると他教科に比べて活用の時間が少なくなってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発表の場を通して、授業や指導法についての意見交換をさらに行う。</li> <li>● ICTの使用と協動的な活動や発表とを結び付けていくことができるか、新たに導入された電子黒板の利活用も踏まえて検討していく。</li> <li>● 導入や鑑賞など、使える場面を狙って積極的に活用する。</li> </ul>
外国語 国際		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他者の考えを知り、自らの考えを広げ深めることに関する(2)(7)(8)については、前回同様3、4と回答する生徒が多く見られる。</li> <li>● ICTに関する設問(5)(11)は、前回同様に数値が低い傾向にあるが、外国語科の改善努力の結果、(5)は改善している。</li> <li>● (4)についても、前回よりわずかに改善しているように見受けられる。</li> <li>● (5)(11)は、設問の「ICT機器等を活用した」の主体が教員であるか生徒であるか明示されていないため、教員が利活用していても、生徒自身が実際に活用していない場合には1・2をつけている可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回目に続き、授業で得た新たな知識・技能を元に自ら探究し自分の考えを深め、表現する時間を設ける。</li> <li>● 4技能を実践的に活用するために、知識・技能を定着させる時間を設ける。</li> <li>● 次年度に向け、生徒の実力を育む方向で、生徒がICT機器や生成AIを適切に利活用する授業を引き続き展開し、共有する。</li> </ul>
家庭・看護		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体的に満足度は高い。特に(4)(10)の主体的な取り組みが出来ているという回答が多かった。</li> <li>● 批判的・論理的な思考を意識した内容が不十分だといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実習に対する満足度が高い。座学についても実習と同等の経験ができる授業展開にしたい。</li> <li>● 批判的意識を取り入れたディスカッションの時間や、論理的に説明を行う活動を取り入れていきたい。</li> </ul>
情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報 I ではR6年度と異なり、考査実施時期を後期期末試験ではなく後期中間試験に変更したことで、詰め込み授業になってしまったため前期よりも「かなり当てはまる」などが少し下がってしまった印象がある。おおむね前期と同じように「かなり当てはまる」や「当てはまる」が大半を占めてる結果になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業の中での説明を少なくするため、説明範囲を事前に示し、その範囲を小テストにする。そして、授業ではその範囲を理解したこととしてグループワークや実習を多めに切り替える。</li> </ul>
舞台芸術		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単元(内容のまとまり)について、意識できる生徒が増えている。</li> <li>● ICTの活用に関する項目について、否定的な回答が多い。</li> <li>● 「新たな知識を獲得」に関する項目について、実技科目で肯定的な回答が少し低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書・副教材がないため、他教科と比べて生徒は単元を意識しにくいのが課題であった。講師ミーティングなどを充実させ、単元ごとのねらいや振り返りを明確に提示するようにした成果が出てきている。継続したい。</li> <li>● すべての科目においてICT活用が効果的であるとは限らないため、科目や単元の特性を鑑みて、積極的に活用できる場面では活用していく。</li> <li>● 実技科目においては、「知識」の意味を、「情報」ではなく、実演を通じて得た「概念」や「感覚」の習得を含むと捉える必要がある。実技においては、情報を渡すことによって、生徒本人の気づきを減らしてしまい、教育効果が薄れることもある。科目の特性に応じて、慎重に改善していく。</li> </ul>